



2024年度 災害時における多言語情報伝達訓練と 外国人防災リーダー育成研修 を実施しました!



近年、日本各地で地震や洪水などの大規模災害が頻発しており、全国的な防災意識の高まりが見られます。しかし、地域で暮らす外国人にとっては、災害に関する知識や経験の不足に加え、言葉や文化の違いが障壁となり、緊急時に必要な情報を十分に得ることが難しくなる場合があります。そこで香川県や当協会では、外国人住民や災害時通訳ボランティアを対象に毎年実践的な研修を実施し、防災意識の向上を図るとともに、多文化共生の視点を取り入れた包括的な支援体制の構築に努めています。

災害時における多言語情報伝達訓練

～災害時多言語支援センター設置運営訓練～

訓練 ① 10月24日(木)
参加者18名



令和2年、香川県と香川県国際交流協会は、大規模災害発生時に多言語で情報提供を行い外国人住民を支援する「香川県災害時多言語支援センター」の設置・運営に関する協定を締結しました。その後は毎年、手順確認のために職員向け訓練を実施しています。今年度は通常訓練に加え、熊本地震で実際に公表された災害情報を、翻訳者にとって翻訳しやすい文章に書き換える演習も行いました。

～情報多言語化訓練～

訓練 ② 11月17日(日)
参加者18名



訓練①で職員が作成した「翻訳前原稿」を元に、災害時通訳等ボランティアがそれぞれの担当言語に翻訳する訓練を実施しました。翻訳しやすい文章について多くの意見が集まり、貴重な学びの場となりました。

また、多文化共生マネージャー大久保雅由氏(城陽市国際交流協会)による講演では、全国の災害時外国人支援の事例やその意義と課題が紹介され、多くの参加者から参考になったとの声が聞かれました。

外国人防災リーダー育成研修

多文化共生を目指す香川県では、令和4年度から「外国人防災リーダー育成研修」を実施し、災害時に行政と連携しながら、外国人住民の自助・共助の担い手となっていただく外国人材を養成しています。

基礎研修 1月19日(日) 参加者15名

【講師】田口大作氏

(香川県防災士会高松南ブロック長)

「香川県の災害や地域の取組について知る」
ワークショップ「ハザードマップ作成体験」

【講師】譚俊偉氏

(岡山県総社市人権まちづくり課国際交流推進係)

「総社市における災害時外国人支援の取り組みについて」

発展研修 1月26日(日) 参加者19名

【講師】高木和彦氏

(NPO多文化共生マネージャー全国協議会副代表理事)

「防災リーダーに期待される役割」

ワークショップ「情報多言語化、通訳体験」

【講師】香川県、(公財)香川県国際交流協会

「外国人防災リーダーのみなさんをお願いしたいこと」

今年度は7か国からの13名が、新たな外国人防災リーダーに認定されました。

